

# いのち 村が待ち望んだ「生命の道」

## ～一般国道 139 号<松姫バイパス>開通に伴う整備効果～

山梨県 県土整備部 道路整備課

### 1. はじめに

#### (1) 事業背景

一般国道 139 号は、山梨県北東部・多摩川源流に位置する小菅村と県東部の中心地である大月市を結ぶ唯一の生活幹線道路であり、途中、戦国時代の戦乱期に武田信玄の息女「松姫」が織田勢からの難を逃れるため、峠越えしたことで知られる、標高約 1,250m の松姫峠を経由している。この松姫峠前後の区間は、急峻で道路幅員が狭く、九十九折りの峠道が 14km にわたって連続しており、大雨や積雪等による通行止めが過去 12 年間で 23 回という高頻度で生じ、平成 26 年 2 月の豪雪時には 1 ヶ月にわたって全面通行止めとなるなど、生活環境の改善や孤立解消が周辺地域にとって長年の課題であった。

特に、人口約 700 人、高齢化率 30% を超えている小菅村にとっての影響は大きく、大月市まで 1 時



図 1 松姫バイパス位置図



写真1 松姫峠（旧道）の状況  
 (左：車両がすれ違い困難な様子、右：積雪による通行止め)

間以上を要することや、通行規制の頻繁さから、県内他市町村へ通じるバス路線がなかった。そのため、これまで子供が高校に進学する際は一人暮らしをせざるを得ず、高校進学を機に家族で村を出るケースや、村内から村外への通勤が困難なために就職を機に若者が村を出るケースが見られた。

また、通院や日用品の買い物にも公共交通機関を利用して青梅市や奥多摩町といった東京都西部方面へ行かざるを得ず、松姫峠を含む未改良区間の存在による村民の日常生活への精神的、経済的負担は大きなものとなっていた。

そうした状況から、一般国道139号の大月市と小菅村を結ぶ区間は、古くは県道大月奥多摩線であったが、昭和62年から松姫峠へのトンネル建設を実現させるための陳情が行われ、平成4年に国道に昇格された。同平成4年には「大月地域道路整備推進連絡協議会」が、平成8年には「国道139号・松姫トンネル建設促進連絡協議会」が設立され、平成13年には松姫バイパス整備事業が国庫補助事業として採択され、事業着手された。

「一般国道139号松姫バイパス整備事業」は地域が抱えていたこれらの問題の解消を目的とし、高速道路も含めて道路トンネルとしては県内第3位の総延長を誇る全長3,066mの「松姫トンネル」を含む2つのトンネルと4つの橋梁による道路規格第3種第3級、総延長3,800mのバイパス事業である。



図2 松姫バイパス全体一般図

## (2) 事業概要

「一般国道 139 号松姫バイパス整備事業」の事業概要は以下のとおりである。

- ・延 長：3,800m（2車線、全幅 8m）
- ・道路規格：第 3 種第 3 級（設計速度 40km/h）
- ・主要構造物：トンネル 2 本（松姫トンネル L=3,066m、小永田トンネル L=95m）、  
橋梁 4 本（新道築橋 L=21m、事枡橋 L=56m、山王橋 L=50m、小永田大橋 L=96m）
- ・全体工事費：100 億円
- ・事業期間：平成 13 年度～平成 26 年度

工事は平成 17 年に着手したが、松姫トンネルのルート上に鶴川断層による大破碎帯の存在が確認されており、その対策が課題であった。大破碎帯により地山が乱れ脆弱であったため、鏡ボルト等の補助工法を併用しながらの掘削を余儀なくされた。以上のような施工上の問題はあったものの、工事関係者の努力や地元住民の惜しみない協力により、平成 26 年 11 月 17 日に供用が開始された。

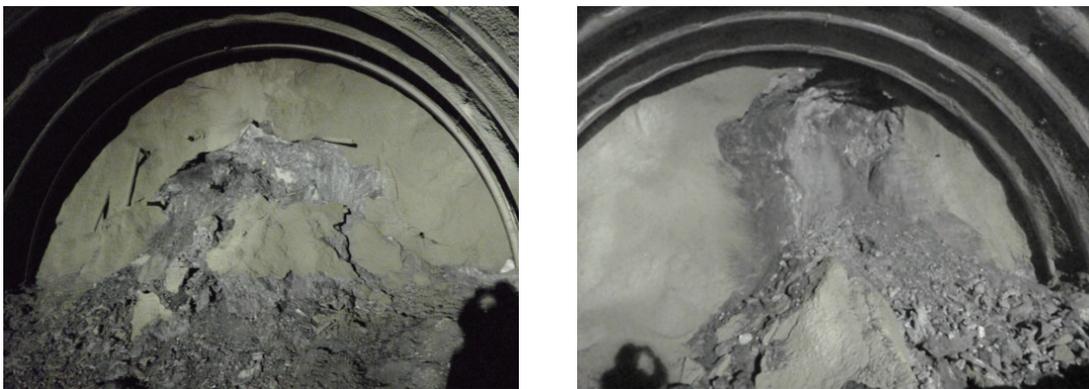


写真 2 松姫トンネル鶴川断層付近の掘削状況

## 2. 松姫バイパス開通に対する地域の反応

多様な恩恵を周辺地域にもたらすことが見込まれる松姫バイパスは地域の期待も大きく、特に供用開始に先立ち執り行われた記念式典には、小菅村の人口約 700 人のうち 500 人以上が参加して盛大なものとなった。

また小菅村の強い働きかけにより実現した、大月市と結ぶバス路線の運行開始を記念して、村主催の路線バス運行開始出発式が行われ、小菅村は一日を通して祝賀ムードに包まれた。この様子は各メディアにも報道され、特に地元・山梨日日新聞には開通記念特集が掲載された。このように周辺地域の長年の悲願であった「一般国道 139 号松姫バイパス整備事業」は、県東部地域の生活環境改善への大きな期待と喜びをもって迎え入れられている。



写真 3 左：開通セレモニー、中：開通記念式典（小菅村体育館）、右：供用直後の大月側待機者列



写真4 運行開始出発式から出発し松姫トンネルを通過する先頭バス

### 3. 整備効果

#### (1) 松姫バイパスを活用した小菅村の取り組み

小菅村は松姫バイパス開通以前から、バイパスによる交通状況改善を活用した路線バスの新規運行や観光・防災に寄与する拠点設置を総合計画に定め、人口減少や高齢化を食い止めて地域を活性化させる取り組みを開始していた。その結果はすでに現れており、バイパス開通と同時に大月市からのバス路線が村の中心部まで延伸され、小菅村は県内の市町村と初めて公共交通機関で結ばれることとなった。

また平成27年3月には村の観光施設、イベント等の情報発信や特産品の販売、飲食の提供を行うと共に、災害時には住民の避難所や復旧、支援活動の拠点としても機能する「道の駅こすげ」が開設された。

さらに若者の生活環境充実を目指して、大月市内の高校への通学バス運行開始を計画しているなど、小菅村では松姫バイパスの開通を契機とした地域活性化に向けた取り組みが次々に実行に移されている。

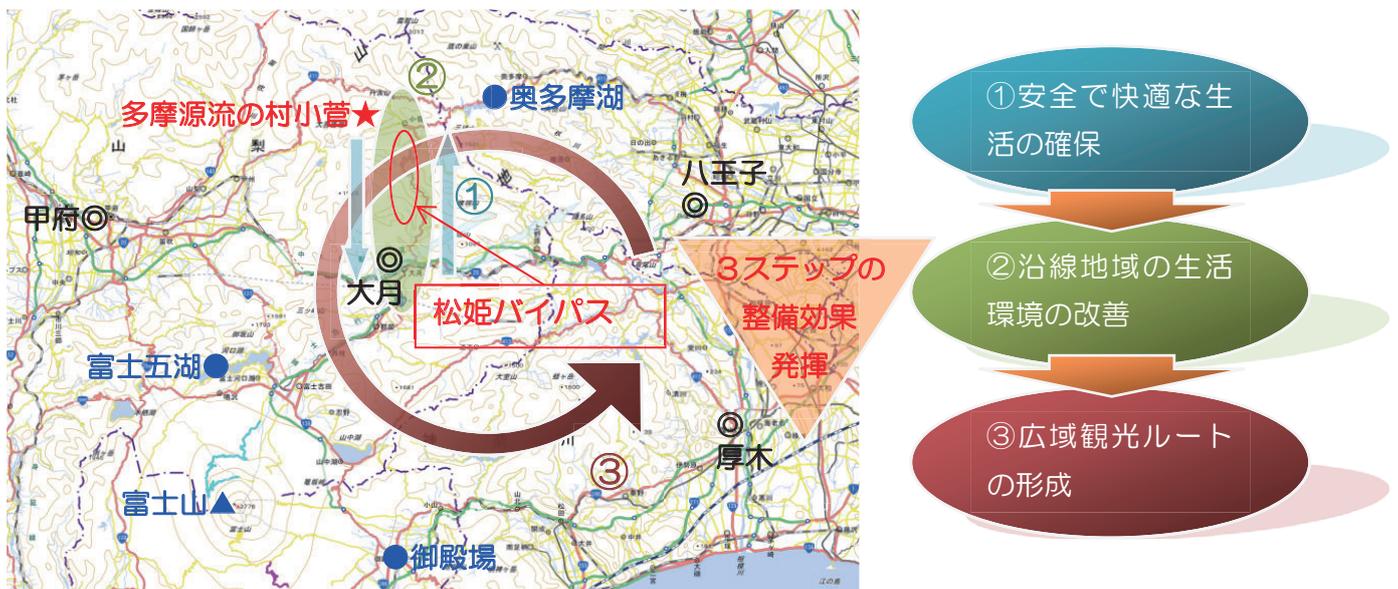


図3 松姫バイパス開通によるストック効果のイメージ

## (2) バイパス整備による特筆すべき効果

(1) の地域活性化に向けた取り組みも合わさり、松姫バイパスは小菅村周辺地域に以下の特筆すべき効果をもたらしている。バイパス開通後に小菅村民を対象にしたアンケート結果の紹介を含め、その効果を述べる。なお、アンケートは平成 27 年 1 月に小菅村全世帯を対象に実施し、約 200 人から回答を得ている。

### ○小菅～大月間の時間短縮による通院先の選択肢拡大

松姫バイパス区間の所要時間は、バイパス開通前（松姫峠）：区間長 14km で約 34 分、開通後：区間長 3.8km で約 5 分となり、30 分程度短縮された。開通前は東京都西部の青梅市や奥多摩町に 1 時間以上を要して通院する住民も多く見られたが、アンケート結果によると、通院しやすい病院の地域は、大月市が開通前 1.4%から開通後 75%と大幅に増加し、反対に青梅市が開通前 67%から開通後 3%に減少している。

以下は、アンケートに記載された住民のコメントである。

- ・病院が近くなって安心。
- ・30～40分で病院にも行けるのでとても近くなった。
- ・青梅市方面の病院へ行くよりも、大月市の病院の方がバスを利用していく時は近くなったと思う。
- ・これから選択肢が増えうれしい。
- ・今までは定期的な通院の回数も自分から控えていたが、以前よりも気軽に通院回数を確保できる。少しでも心配な時に行けるようになった。

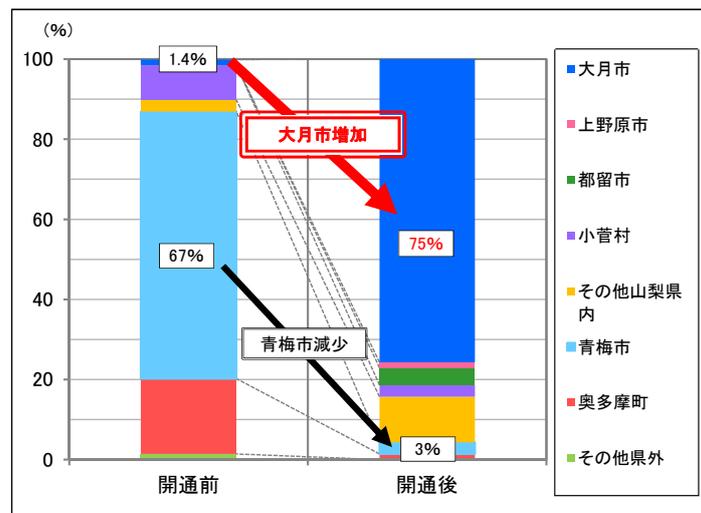


図 4 バイパス開通前後の通院する病院の地域の割合

### ○通行止め区間の回避による安心・安全な生活環境の創造

小菅村役場～大月市役所間の所要時間は、松姫バイパスを通るルートが最短であり、約 40 分である。開通前に比べて所要時間が 30 分程度短縮され、また開通後の調査によると、交通量が約 3 倍に増加しており、住民の日常生活における利便性が飛躍的に向上していることが伺える。

開通前の松姫峠を経由する旧道は、大雨や積雪による通行規制区間となっており、たびたび通行止めとなっていた。通行止めにより迂回を余儀なくされることで生じた損失時間は、年間 2,938 人・時以上であったが、バイパス開通により、通行止め区間を回避することができた。

また、松姫バイパス区間は、平成 27 年 11 月より大雨や積雪による通行規制が解消され、さらに安全・安心で信頼性の高い交通網が確保された。実際に平成 27 年 1 月 30 日と 2 月 5 日には、峠付近で 20cm

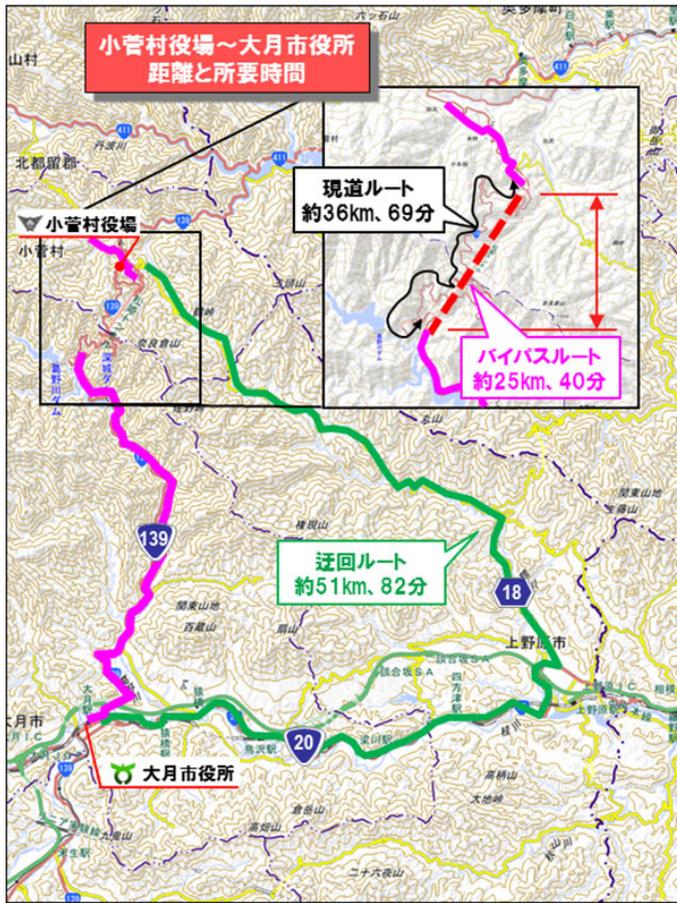
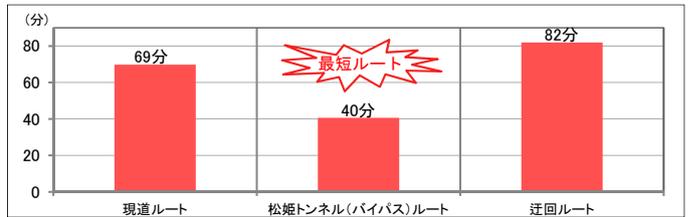
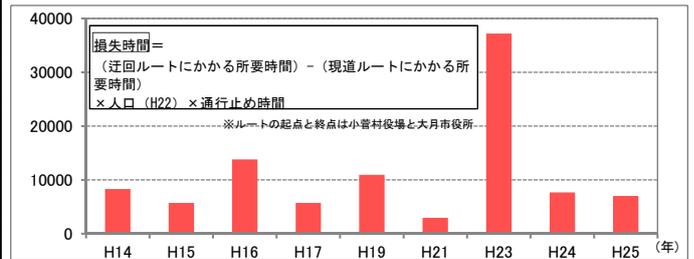


図5 小菅村役場～大月市役所のルート



※H22 交通センサスの区間距離と混雑時平均旅行速度を使用

図6 所要時間の比較



※人口：H22 国勢調査（小菅村）

図7 現道の通行止めによる損失時間の推移

程度の積雪があったが、当該区間を規制せずに済んでいる。加えて、防災拠点としても機能する道の駅こすげが平成 27 年 3 月に開設され、小菅村の防災に大きな役割を果たしているといえる。

以下は、アンケートに記載された住民のコメントである。

- ・冬季間も安全に通行できる。
- ・これからは村が孤立してしまうことがなくなると思う。
- ・大月の松姫峠は雪が多く、すぐ通行止めとなり、とても危険な道だったが、トンネルにより運転が非常に楽になり、安心して通れるようになった。

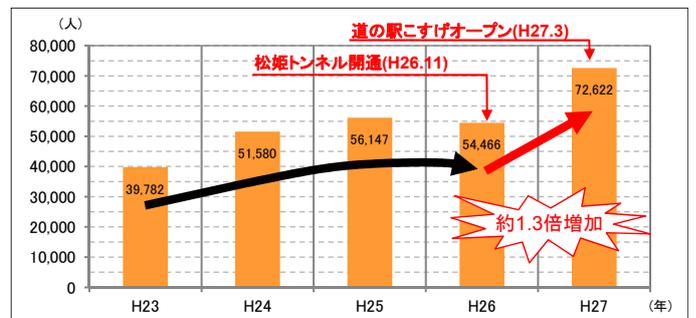
### ○走行が快適なルートにより、観光客の増加&周遊観光ルートを形成

松姫バイパスが開通したことにより、交通の難所である松姫峠を回避することでき、観光客の疲労を軽減するとともに、新たな観光周遊ルートが形成されている。これは、東京都西部地域から小菅村を経由して大月市をはじめとする山梨県東部地域、さらに世界文化遺産の富士山を有する富士北麓地域とを結ぶ広域観光ルートである。このような観光ルートが形成されたことにより、小菅村への観光客入込客数は、松姫バイパス開通後、平成 26～27 年で約 1.3 倍に増加した。また、村の主要観光施設である「小菅の湯」の利用者数も同様に、開通後、平成 26～27 年で約 1.3 倍に増加している。

今後は、道の駅こすげとの相乗効果や、旅行会社やバス会社等との連携を図り、今後の更なる村の観光業発展とそれに伴う雇用の創出が見込まれる。



図8 バイパス開通後の観光ルート



※山梨県観光入込客統計調査報告書

図9 小菅村観光客入込客数の推移

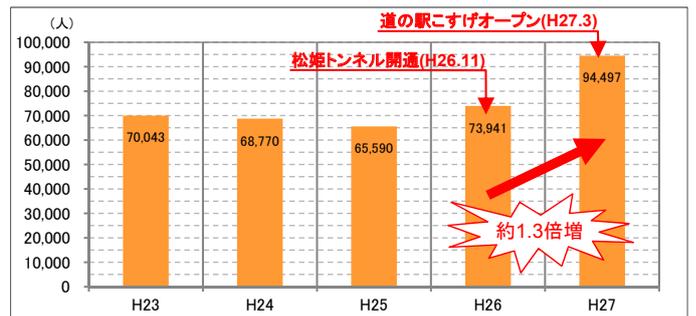


図10 小菅村観光客入込客数の推移

以下は、アンケートに記載された住民のコメントである。

- ・村以外の車も多くなり、観光（温泉）がにぎやかになっている。
- ・小菅の湯の駐車場に来る車が増えたと思う。
- ・静岡へも行きやすくなったと思う。

### ○通勤・通学・買い物で生活利便性の向上

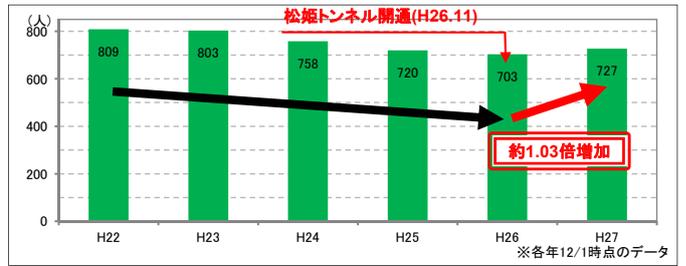
バス会社との官民共同による取り組みによって、松姫バイパス開通にあわせて、小菅村と大月市を結ぶ路線バスの運行開始が実現した。1日3往復、約1時間で両市村を結ぶ路線バスにより、沿線地域の通勤や通学、買い物といったあらゆる生活環境が大きく改善された。通学面においては、高校の選択肢が広がり、開通後に調査したところ、村内の中学3年生全員が来春より実家から高校に通学することを決めた。また下宿先から実家に戻った高校生や、村内から就職先への通勤を決めた若者もいることなど、若者が村を離れる必要がなくなることで、少子化及び人口減少にも歯止めがかかることが期待されている。小菅村の人口推移は、バイパス開通前は減少傾向にあったが、開通後の平成27年は前年比で1.03倍に増加した。また、買い物をしやすい地域について調査したところ、大月市と都留市の合計が、開通前0.9%から開通後85%に大幅に増加した。反対に青梅市は、開通前82%から開通後7%に減少した。開通と同時に運行開始した路線バスは、大月駅や大月市内の商業施設、高校といった主要な施設に停留所が設置されており、生活利便性が大幅に向上した。

以下は、アンケートに記載された住民のコメントである。

- ・バイパスの開通により、高校選択の幅が本当に広がったと思う。
- ・家から高校へ通えるのはありがたい。



図11 大月市内の主要施設



※国勢調査第1次基本集計結果による山梨県の人口と世帯数

図12 小菅村の人口推移

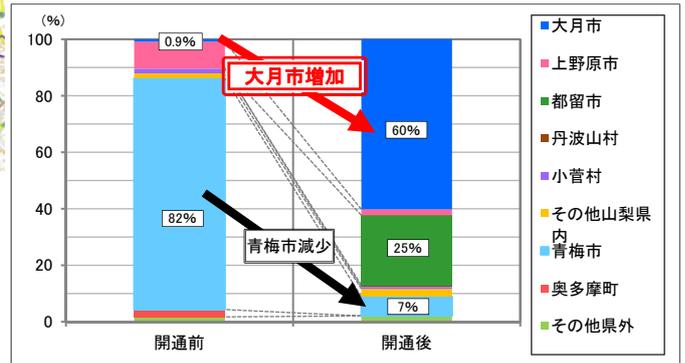


図13 開通前後の買い物先

#### 4. おわりに（バイパスによる地域の活性化）

これまで述べてきたように、松姫バイパス整備は小菅村周辺地域に大きく成長する機会を与え、それを活かした路線バスの運行開始や観光振興・防災に寄与する地域の拠点づくりを実現させた。今後も人口減少や過疎化の克服、地域活性化を目指す取り組みによって、松姫バイパスが大いに活用されていくことが期待できる。